

桜陽高校だより

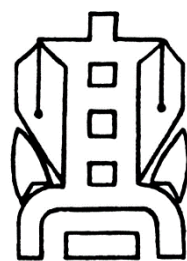
「風かがやかし丘」から

北海道小樽桜陽高等学校長 山内 章 裕



一 校名訓桜陽

令和六年四月に校長として本校に着任いたしました。皆様どうぞよろしくお願いいたします。創立一一八年を迎える歴史と伝統のある北海道小樽桜陽高等学校で勤務することができ喜びとそれ以上に大きな責任を感じております。さて、今年度本校は百八五名の新入生を迎えスタートしました。式辞では本校の校名の由来となった校名訓「桜陽」について話しました。桜陽高校は私が勤務する一〇校目の学校となりますが、校名訓なるものがある学校は初めてからです。校名訓の解説から少し説明させていただきます。「桜陽」の校名は平安時代の『詞花和歌集』に収められた源頼政の「深山木の 其の



第 109 号

令和 6 年

10 月吉日発行

目 次

P1	学校長
P3	生徒会
P4	教務部
P5	1 年次主任
P6~12	部活動報告

二 教育目標等

年度の初めには学校経営方針等を示し、本校の教育活動を理解していただいておりますが、校訓や学校教育目標は上記に示されたとおりです。そして、三年ほど前から各学校ではスクールミツションや三つのスクールポリシーを踏まえ教育活動を行うこととしております。本校では、スクールポリシーの一つのグラデュエーションポリシー（育てたい人間像）に「自ら課題を発見し、取り組み、事故の進路記切り開く実践者（①自己肯定力②主体的実行力③課題発見力④創造力）」と「豊かな人間性を備えた社会の形成者⑤発信力⑥傾聴力⑦規律性」を育成することを掲げ、教科指導はもちろん、総合的な探究の時間、学校行事、本校の伝統的な活動であるボランティア活動など学校教育全体でそれらの育成を目指しております。

校 訓

賢く 強く 豊かに

学校教育目標

- (1) 研学に努め、知性を錬磨する。
- (2) 環境を整え、公共心を涵養する。
- (3) 責任を重んじ、道義心を涵養する。

三 生徒の特徴〈学習状況等調査〉

本校生徒は素直で優しい、温厚であるなどと評され、就職してもよく働いてくれるという評価があります。いろいろな評価がありますが、今回は全道の公立高校の一年生が回答している「北海道学習状況等調査」の結果からいくつか特徴的なものを紹介します。

(内の％は全道結果)

① 将来の夢や目標を持っている

【本校】 当てはまる 37.3％(36.6％)、どちらかと言えば当てはまる35.7％(32.4％)で七割以上の生徒が前向きな回答です。

② 人の役に立つ人間になりたい

【本校】 当てはまる 75.1％(67.0％)、どちらかと言えば当てはまる22.7％(27.9％)で九割以上の生徒が肯定的な回答をしており、どちらのデータも全道平均の割合よりも上回っているのが特徴です。

四 これからの社会

私たちが生きる今の社会は Society

50時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつあると言われておりますが、生成AIの登場や新型コロナウイルスのパンデミックを経て、大人も含めこのことを体験しています。

社会の変化が進む中、新聞やテレビなどをオールドメディア、SNSやYouTubeなどをニューメディアというように表現されることがあります。

皆さんはどちらに多くの時間を割いているでしょうか？新聞などのオールドメディアは興味・関心のないものが多いからそれらから離れていく傾向にあるのではないのでしょうか。一方でSNSやYouTubeの情報は自分に興味関心のある話題が提供され「役立つな」とか「面白い」と思って活用しているのではないのでしょうか。私もそうです。例えばインターネット上のニュースを見ていると、最近北海道の記事が多いな、今日も教育関係でこんな問題が起きて全国で大問題になっているのかと思っていました。しかし、遅ればせながらこれは勘違いだと気づきました。自分が検索するニュース等をAIが分析し、好みのニュースを提供してく

れているのです。SNSのインスタグラムやXも同様です。このことに気づくまで少し時間がかかり反省しましたが、これは大変大きな問題をはらんでいると私は考えています。新聞などのオールドメディアは興味のあるなしにかかわらず、今問題となっているニュースを読者や視聴者に提供し共有する役割を果たし、私たちはそれらから得た情報や知識を共有し、日常のコミュニケーションで活用しています。しかしながら、SNSなどのニューメディアから得る情報は一人一人異なり、共有する情報を活用したコミュニケーションが成立し難い状況が生まれていることを自覚することが必要だと考えています。コミュニケーションがうまくいかなくなることは人間関係がうまくいかなくなることにつながり、問題の広がりも大きくなっていくのではないかと私は危惧しています。

私たち学校ではICTの活用能力や情報活用能力を高める指導をすることは当然ですが、どのように活用し、バランスの良く資質能力を向上させることが重要であると考えているため、例えば、学校はAIの活用が進まないなどと思なされることもあるかもしれません。

せん。しかし、学校としては流行に流されることなく本質をとらえた教育を進めますのでご理解ください。

五 最後に

今年度部活動では多くが全道大会に進出するなどの活躍をし、インターハイには陸上部・ボート部、総文祭には新聞局、国体にボート部、全道選抜選手としてラクビー部の部員が選出されるなど多くの成果を上げ、同窓会からも激励を頂戴しております。私も生徒をたくさん褒めてあげたいと思っています。そして、夏休み前の全校集会で生徒の皆さんに今年の終わりに「自分で自分を褒める」ことができるよう、改めて自分の目標を確認・設定し、一人一人がそれぞれの目標をもって学校生活を送ってくれるよう話させていただきました。そして、本校教職員はこれからも生徒の目標の実現に様々な形でサポートする所存です。

結びに、保護者の皆様には本校の教育活動への深い御理解と御協力に感謝申し上げます、今後とも一層の御理解と御協力をお願いいたします。

第七十一回 桜陽祭終了！皆様ご協力ありがとうございました！

生徒会担当 水谷 徳次郎

七月六日(土)・七日(日)の二日間

で、第七十一回桜陽祭が行われました。

私は恥ずかしながらこれまでの教員生活で生徒会を担当したことはありませんでしたし、この規模の学校祭を担当したこともありませんでした。様々な方々にご迷惑をお掛けしながら、助けをもらいながら学校祭を無事におえることができ、ホッとしています。この場をお借りし、改めてPTAの皆様、桜陽会の皆様、学校祭に係わっていただいた全ての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

昨年度からコロナ前のかたちに戻し実施しましたが、準備段階や学校祭当日で様々な課題が現れました。教職員をはじめ、生徒会執行部等と議論を重ねた結果、今年度より二日間日程に変更することになりました。二日間に変更するにあたり、執行部とは「桜陽生にとって学校祭は特別なものであり、絶対に桜陽祭の“質”は下げたくない！」「取り組むことを限定できるのだから一つ一つの取組の“質”を上げた

い！」など、色々なことを話し合いました。開会式や閉会式の実施方法を工夫したり、一般公開の時間を長くしたり、クラスデザインという新しい取組にも挑戦したり、キッチンカーを導入したりするなど、新しいかたちの桜陽祭を模索し取り組みました。今回の変更に伴い、執行部だけではなく、全校生徒一人ひとりに色々な思いがあったと思います。一人ひとりが納得のいく学校祭になったかは分かりませんが、大成功だったと言って良いかも分かりません。しかし桜陽生の学校祭に取り組む姿勢は素晴らしかったです。学校祭を通して仲間が増え、クラスの団結力が高まっていく様子を見ると、桜陽生にとって学校祭はなくてはならないものだと感じました。また、学校祭を一人ひとりの個性を発揮する場、集団として成長していく場として捉えたときに、なくしていけないものだと思っています。

様々な理由から学校祭をなくす学校もあると聞きます。桜陽生にとって、

学校祭は必要なものであることを、証明できなければ、時代の流れに従って学校祭がなくなってしまうという危機感も感じています。学校祭の必要性を証明するのは誰かといえば、全校生徒一人ひとりだと思います。執行部や一部の生徒だけが頑張るのではなく、全校生徒一人ひとりが学校祭を自分事として捉え、行動し、学校祭に価値を見いだしていかなければならないと思います。学校祭業務を進めていく中で、このようなことを強く感じました。

今年の学校祭のサブタイトルは「単位よりも大切な何かを求めて」でした。単位は大切なものですが、単位と同じくらい大切なものを学校祭に見いだすことができたでしょうか？このことについて、一人ひとりが本気で考えてみてほしいと思います。

最後に、この場をお借りして執行部に向けてコメントをさせていただきます。今年の四月に顧問がかわり、不安等もあったと思いますが、学校祭の実施に向けてよく頑張ってくれたと思います。ありがとうございます。

また、執行部の三年生とは約三ヶ月という短い時間ではありましたが、同じ時間を共有できたこと大変嬉しく思っ

ています。三年生は、真面目さの中に遊び心があり、何より明るいところが良いところだと思います。特に、その明るさには、助けてもらいました。本当にありがとうございます。そして執行部としての活動、本当にお疲れ様でした。

三年生が抜けても、現在の執行部員は二十名近くいる大所帯です。この人数で一つにまとめることは難しいことですが、「一人ではできないことも、みんなで力を合わせたらできる！」ということを実感してほしいですし、証明してほしいと思います。互いに支え合いながら、助け合いながら桜陽生の先頭となり、リーダーシップを発揮していきましよう。次は一・二年生の番です。



勤勉は善で、怠惰は悪である？

教務部長 高橋 邦雄

皆さんはバードランド・ラッセル（一八七二―一九七〇）という人物をご存じでしょうか？

彼はイギリスの哲学者、論理学者、数学者、社会批評家、政治家、動家といろいろな肩書きがありますが、一九五〇年にノーベル文学賞も受賞しています。今回は一九三二年に書かれた「怠惰への賛歌」というエッセイを一部ですが紹介したいと思います。実は私がラッセルを知ったようになったのは最近で、YouTubeのあるチャンネルの動画を視聴しただけで、まだ本をすべて読んでいないことをあらかじめお断りしておきます。

さて、彼はこの本で「一日四時間労働」を提唱し、ひまな時間を創造や趣味などに費やすことで、

ゆとりや新しい文化が生まれると述べています。しかし、昔から「労働は美德である」という概念が社会的に受け入れられ続けており、それを変化させるにはテクノロジーの進化と教育が必要だと主張しています。九十年前と比べて、現代は科学技術がめざましく発達している一方、一九一九年に国際条約で「一日八時間労働」が規定され、いまだにそれが常識のままであるし、日本においては八時間で帰宅できるのはまれで、過労死の問題が度々取り上げられています。

彼が生まれ育ったイギリスの歴史は貴族階級が社会の頂点に存在し、次に会社の経営者や資本家、そして大多数が労働者階級でした。少数の貴族階級が「ひま」

を謳歌し、文化を生み出す一方、自分たちが富や時間を得るために、労働者階級に「労働は美德である」という道徳を植えつけたと説明しています。そこで、社会的全体の幸福感を高めるには多くの労働者が時間的なゆとりをもつ必要性を感じたのでした。そして、当時としてはとても斬新な「一日四時間労働」を提唱しました。

また、彼は教師に対して次のように提案しています。「教師は、一日中子供たちと過ごすべきではない。最大二時間程度に止め、残りの時間は子供たちから離れることである。男女の交際にせよ、子供の教育にせよ、疲れてくるとイライラしてくるものだ。この苛立たしさはどんなに努力しても、コントロールできるものではない。子供たちと一定の距離をとり、彼らとの時間を楽しめる、心の余裕を持つことが大切である。そう

すれば、子供の自由を制限する規則もいらなくなり、誤った判断を下すこともなくなるだろう。」

最近、教員の処遇改善を巡って、残業代の代わりに月給四％相当の「教職調整額」を支払う制度を見直し十％以上に引き上げるなどと、中教審が政府に答申しました。教員の収入増が、時間的なゆとりを生むかどうかは疑問に思うところですが、私も在職三十年以上となり「やっと改善されるのか」と思うところです。ただ、4今春多くの教え子が「教員志望」で大学に進学をしていきました。担任としては目標に向けて努力し、彼らが実際に教員になってもraithたいと切望しています。その頃には、ラッセルが提唱した「一日四時間労働」は無理でも、教育現場の環境改善が進み、新入教員がより「ゆとり」を持って活躍できる学校であって欲しいと思います。

ねばり強く取り組むことについて

一年次主任 牛島義昌

一年次の皆さん。入学してから六ヶ月が過ぎました。

その間、授業や入学式、学校祭などの行事、二度の考査を経験し、どのように感じていますか？
これまでのみんなの姿を見て、今後も頑張り続けて欲しいと思っています。「できる」「できない」はすぐできる者もいれば、時間がかかる者もいます。

私は保健体育科教員で部活動に参加してきた人間です。すぐできることもあれば、なかなかできなかったこともあります。しかし、練習を続けることでできるようになったり、より難しいことができるようになりました。分かりやすいのは、筋力トレーニングだと思っています。ウエイトトレーニングで筋肉に刺激を与えてから効

果がでるまで最短でも二週間以上かかります。（そう考えると勉強の効果の方が早いと感じますが）つらい思いをしても身体の変化が見られず、筋力も向上せず、疲ればかり残りうんざりしてしまいました。しかし、徐々に重量を上げることができるようになり、一年後には簡単にこなせるようになります。 「できない」時期はともつらく、「やめたい」という気持ちも高まりました。しかし、仲間も同じ思いで努力していることから自分も続けることができたのです。

さて、皆さんの現在はどうでしょうか？現時点でつらい人。これからつらくなる人。来年つらくなる人。三年次につらくなる人。個々によって感じ方が違うかも

知れません。進む方向も同じではなくなります。しかし、皆同じように「つらい」と思う時期がやってきます。努力し続けましょう。結果は後からついてきます。決して無駄にはなりません。
そんな皆さんを先生方は支えていきます。
保護者の皆様。お子様にお声掛け頂きますようよろしくお願い致します。



部活動結果

【地区大会】

【バレー部】

◎小樽・後志高等学校春季大会

【男子】

対 未来創造	2	0
対 潮陵	2	1
対 倶知安	2	0

優勝

【女子】

対 双葉	2	1
対 潮陵	2	0
対 未来創造	2	0
対 倶知安	2	0

優勝

◎北海道高等学校総合体育大会

小樽支部予選会

【男子】

対 倶知安	2	1
対 未来創造	1	2
対 潮陵	2	1

準優勝

【女子】

対 双葉	1	2
対 潮陵	2	0
対 未来創造	2	0

対 倶知安 2-0

準優勝

【バスケットボール部】

◎小樽地区春季バスケットボール

選手権大会

【男子】

一回戦 対 倶知安	101	54
準決勝 対 未来創造	85	58
決勝 対 潮陵	62	89

2位

【女子】合同（桜陽・水産・明峰）

リーグ① 対 双葉	28	119
リーグ② 対 潮陵	20	0

◎全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会小樽支部予選会

【男子】

一回戦 対 岩内	89	53
リーグ① 対 明峰	61	44
リーグ② 対 未来創造	90	46
リーグ③ 対 潮陵	75	111

2位

【女子】合同（桜陽・倶知安・岩内）

リーグ① 対 双葉	23	120
リーグ② 対 潮陵	42	65
リーグ③ 対 合同（水産・明峰）	56	41

【バドミントン部】

◎小樽地区高校春季バドミントン

選手権大会

【男子団体】

優勝

【女子団体】

1回戦敗退

【男子ダブルス】

金澤・大瀧 優勝

永原・武藤 準優勝

【女子ダブルス】

高橋・千葉 ベスト8

【男子シングルス】

金澤 優勝

大瀧 準優勝

武藤 ベスト8

◎高体連小樽支部バドミントン選手権大会

【男子団体】

優勝

【女子団体】

二回戦敗退

【男子ダブルス】

金澤・大瀧 優勝

【女子ダブルス】

武藤・永原 準優勝

【男子シングルス】

高橋・千葉 ベスト8

金澤 優勝

大瀧 準優勝

武藤 3位

◎小樽地区バドミントン選手権大会

【男子ダブルス】

武藤・本間 準優勝

【女子ダブルス】

木田・嶋崎 ベスト8

奥出・成田 ベスト8

【男子シングルス】

武藤 優勝

◎全日本ジュニア（南北北海道ブロック）

小樽支部出場選手選考会

【男子ダブルス】

武藤・本間 勝利

【卓球部】

◎春季小樽支部高等学校卓球大会

【男子ダブルス】

中井・熊谷 2回戦敗退

深田・村川 1回戦敗退

【男子シングルス】

山崎 3回戦敗退

金濱 2回戦敗退

中井 2回戦敗退

熊谷 2回戦敗退

深田 1回戦敗退

村川 1回戦敗退

【女子シングルス】

嘉藤 1回戦敗退

◎国民スポーツ大会小樽地区予選

卓球大会

【少年男子シングルス】

金濱 準優勝

深田 3位

中井 3回戦敗退

熊谷 3回戦敗退

村川 2回戦敗退

【少年女子シングルス】

嘉藤 全道大会進出

◎高体連卓球大会小樽支部予選会

【男子学校対抗】

第3位

【男子ダブルス】

金濱・山崎 準優勝

中井・熊谷 3回戦敗退

深田・村川 2回戦敗退

【女子ダブルス】

嘉藤・川村 2回戦敗退

【男子シングルス】

金濱 3回戦敗退

深田 3回戦敗退

中井 2回戦敗退

山崎 2回戦敗退

熊谷 2回戦敗退

村川 1回戦敗退

大竹 1回戦敗退

【女子シングルス】

嘉藤 1回戦敗退

◎小樽卓球選手権大会

兼北海道大会予選会

【ジュニア男子シングルス】

金濱 優勝

山崎 ベスト4

熊谷 2回戦敗退

深田 2回戦敗退

村川 2回戦敗退

【男子ダブルス】

金濱・深田 2回戦敗退

熊谷・村川 1回戦敗退

【ジュニア女子シングルス】

嘉藤 2回戦敗退

川村 1回戦敗退

【女子ダブルス】

嘉藤・川村 1回戦敗退

【サッカー部】

◎小樽地区春季選手権大会

一回戦 対 水産 4―1

準決勝 対 倶知安 1―1

PK(5―3)

決勝 対 潮陵 1―0 優勝

◎北海道高等学校サッカー選手権大会

小樽支部予選

準決勝 対 水産 3―1

決勝 対 北照 0―9 準優勝

◎全国高校サッカー選手権北海道大会

小樽地区予選会

準決勝 対 潮陵 2―0

決勝 対 水産 2―3 準優勝

【野球部】

◎春季北海道高等学校野球大会

小樽支部予選

一回戦 対 北照 0―12 敗退

◎全国高等学校選手権記念大会

北海道大会小樽支部予選会

一回戦 対 北照 0―15 敗退

【ソフトテニス部】

◎小樽支部高校春季団体ソフトテニス大会

大会

【男子団体】

優勝

【女子団体】

優勝

◎高体連小樽支部ソフトテニス選手権大会

大会

【男子団体】

優勝

【女子団体】

優勝

【男子ダブルス】

横道・加藤 優勝

小山・奥山 準優勝

伊藤・櫻井 第3位

【女子ダブルス】

金山・玄野 準優勝

仙保・嶋田 第3位

羽立・松井 第3位

◎小樽支部ソフトテニス高校国体予選大会

【男子ダブルス】

伊藤・櫻井 優勝

【女子ダブルス】

金山・玄野 優勝

森・奥名 準優勝

佐々木・中川 第3位

◎小樽支部高校新人ソフトテニス大会

兼 北海道新人戦予選大会

【男子団体】

優勝

【女子団体】

優勝

【男子ダブルス】

伊藤・櫻井 優勝
平野・長谷川 準優勝

【女子ダブルス】

金山・玄野 優勝
佐々木・中川 準優勝
森・奥名 第3位

【男子シングルス】

伊藤 優勝
櫻井 準優勝

【女子シングルス】

森 優勝
金山 準優勝
奥名 第3位
佐々木 第4位

【テニス部】

◎小樽支部高等学校春季テニス大会

【男子シングルス】

浦田 優勝
津田 3位
名平 4位

【男子ダブルス】

浦田・津田 3位
名平・森組 4位

【女子シングルス】

関戸 優勝
前川 3位

【女子ダブルス】

関戸・坂井 優勝

◎小樽支部高等学校テニス選手権大会

【男子団体戦】

優勝

【女子団体戦】

優勝

【女子ダブルス】

関戸・前川 3位
佐藤・坂井 4位

【男子シングルス】

浦田 優勝
津田 4位

【女子シングルス】

関戸 優勝

◎国民スポーツ大会テニス競技
後志地区予選会

【男子】

浦田 優勝
津田 4位

【女子】

関戸 優勝
前川 3位

【弓道部】

◎小樽支部高校弓道春季大会

【男子団体】

準優勝

【女子団体】

準優勝

【男子個人】

山本 優勝
伊名野 2位

◎高体連小樽支部弓道選手権大会

【男子団体】

優勝

【女子団体】

準優勝

【男子個人戦】

伊名野 優勝

【女子個人戦】

守田 2位
光用 3位

【柔道部】

◎小樽支部春季高等学校柔道大会

男子60kg級

野村 2位

男子73kg級

吉田 2位
麻績 3位

男子73kg超級

加藤 1位
川邊 2位

女子無差別級

福岡 1位

浦野 2位

◎高体連 小樽支部予選会

【男子団体戦】

優勝

【女子団体戦】

優勝

男子60kg級

野村 2位
小野 3位

男子73kg超級

加藤 1位
吉田 3位

女子無差別級

福岡 1位
浦野 2位

【陸上競技部】

◎小樽支部高等学校陸上競技大会

男子100m

小笠原 1位

齋藤(実) 2位

上野 3位

男子200m

小笠原 1位

齋藤(実) 2位

男子400m

齋藤(実) 1位

男子 800 m	齊藤（優） 6位	男子砲丸投	橘 4位	女子砲丸投	山田 棄権	男子 800 m	鈴木 2位
男子 1500 m	鈴木 2位	男子円盤投	渭原 5位		坂野 1位	男子 1500 m	鎌田 1位
	鎌田 棄権		橘 6位	女子円盤投	栗谷 3位		久野 8位
	鎌田 1位		渭原 7位		坂野 2位	男子 5000 m	鎌田 1位
	鈴木 2位	男子やり投	橘 8位	女子やり投	栗谷 5位		多田 3位
男子 5000 m	多田 7位	女子 100 m	滝澤 3位		坂野 4位	男子 3000 m障害	多田 2位
	多田 1位		小笠原 5位	女子ハンマー投	圓山 7位		多田 2位
男子 110 m H	戸塚 棄権	女子 200 m	滝澤 4位		栗谷 2位	男子 4×100 mリレー	多田 1位
			圓山 8位		圓山 4位	男子 400 m H	戸塚 棄権
男子 400 m H	戸塚 2位	女子 100 m H			滝澤 5位		戸塚 棄権
男子 3000 m障害	多田 2位		小笠原 1位	◎北海道高等学校新人陸上競技大会	栗谷 2位	男子 3000 m障害	多田 1位
			本庄 2位	小樽支部予選会	圓山 4位		多田 7位
男子 4×100 mリレー	上野・齋藤（実）・戸塚・小笠原 1位	女子 4×100 mリレー			滝澤 5位	男子 走幅跳	多田 3位
		小笠原・本庄・米田・滝澤	2位		圓山 4位	男子 4×400 mリレー	鎌田 1位
		栗谷・滝澤・圓山・本庄	3位		齋藤（優）・上野・戸塚・齋藤（実）	男子 走幅跳	久野 8位
男子 4×400 mリレー	齋藤（実）・戸塚・鈴木・齋藤（優） 2位	男子 200 m			栗谷 3位	男子 砲丸投	鎌田 1位
					吉田 予選敗退		久野 8位
男子 走幅跳	上野 1位	男子 400 m			齋藤（実） 1位	男子 円盤投	久野 8位
	吉田 8位				戸塚 4位	男子 ハンマー投	久野 8位
男子 三段跳	上野 2位	女子 三段跳	米田 2位		齋藤（実） 1位	女子 100 m	久野 8位
			小笠原 3位		戸塚 3位		久野 8位

【放送局】
◎NHK杯全国高校放送コンテスト
後志支部大会
女子 200 m 滝澤 3位
小笠原 4位

女子 400 m 本庄 3位
滝澤 1位
【アナウンス部門】 相澤 第2位

女子 100 m H 小笠原 1位
本庄 3位
米田 2位
小松田 野沢 蔭山 参加
若宮 第2位

女子 400 m H 本庄 1位
【テレビドキュメント部門】 第1位

女子 4×100 m リレー 小笠原・栗谷・本庄・滝澤 1位
全道推薦 黒川
◎高文連後志支部美術展・研究大会

女子 4×400 m リレー 栗谷・滝澤・圓山・本庄 2位
佳作 櫻井 野口 中森 安崎

女子 三段跳 米田 3位
◎高文連後志支部音楽発表会

女子 砲丸投 坂野 1位
優良賞

女子 円盤投 栗谷 2位
◎高文連後志支部春季写真研究大会
生徒投票での佳作扱い 石黒

女子 やり投 坂野 1位
◎高文連後志支部写真展・研究大会
優秀賞 浅井

女子 ハンマー投 圓山 2位
入選 伊藤 木村

女子 ハンマー投 栗谷 1位
佳作 浅井 井内 菊地 木村
久保田 渡邊 西内

【全道大会】

【バレー部】

【女子】

◎北海道高等学校総合体育大会

バレーボール競技大会予選ブロック戦

対 0-2 帯広南商業

対 0-2 札幌北斗

【バスケットボール部】

◎北海道高等学校総合体育大会

バスケットボール競技大会

【男子】

対 函館大谷 64-89 1回戦敗退

【バドミントン部】

◎北海道体育大会バドミントン競技会

【男子ダブルス】

金澤・大瀧 1回戦敗退

永原・武藤 2回戦進出

【男子シングルス】

金澤 2回戦進出

大瀧 1回戦敗退

◎北海道高等学校バドミントン選手権大会

【男子団体】

1回戦敗退

【男子ダブルス】

金澤・大瀧 2回戦敗退

武藤・永原 1回戦敗退

【男子シングルス】

金澤 2回戦敗退

大瀧 1回戦敗退

◎全日本ジュニア出場選手選考会

(南北海道ブロック)

【男子ダブルス】

武藤・本間 1回戦敗退

◎北海道バドミントン選手権大会

(高校の部)

【男子ダブルス】

武藤・本間 1回戦敗退

【男子シングルス】

武藤 2回戦敗退

【卓球部】

◎全国高等学校卓球選手権大会北海道予選会

【男子ダブルス】

金濱・山崎 1回戦敗退

◎国民スポーツ大会卓球競技北海道予選会

【少年男子シングルス】

金濱 2回戦敗退

中井 1回戦敗退

【少年女子シングルス】
熊谷 1 回戦敗退
嘉藤 2 回戦敗退

【ソフトテニス部】

◎北海道高等学校ソフトテニス選手権大会
【男子団体】
対 北見藤 0-3 2 回戦敗退

【女子団体】
対 登別明日 1-2 2 回戦敗退

【男子個人戦】
横道・加藤 1 回戦敗退
小山・奥山 1 回戦敗退

【女子個人戦】
金山・玄野 2 回戦進出

◎国民体育大会ソフトテニス競技
北海道ブロック予選会

【男子ダブルス】
伊藤・櫻井 2 回戦進出

【女子ダブルス】
金山・玄野 2 回戦進出
佐々木・中川 1 回戦敗退
森・奥名 1 回戦敗退

【テニス部】

◎北海道高等学校テニス選手権大会

【男子団体戦】
2 回戦敗退

【女子団体戦】
1 回戦敗退

【男子シングルス】

浦田 1 回戦敗退

津田 1 回戦敗退

【女子シングルス】

関戸 2 回戦敗退

【女子ダブルス】

関戸・前川 1 回戦敗退

佐藤・坂井 1 回戦敗退

◎国民スポーツ大会テニス競技

北海道予選大会

【男子】

浦田 1 回戦敗退

津田 1 回戦敗退

【女子】

関戸 1 回戦敗退

前川 2 回戦敗退

【弓道部】

◎高体連北海道高等学校弓道選手権大会

大会

【男子団体戦】

2 次予選敗退

【男子個人戦】
伊名野 5 位入賞
【女子個人戦】
守田 予選敗退

【柔道部】

◎北海道高等学校柔道大会

【男子団体戦】
ベスト 16

【女子団体戦】
ベスト 8

【男子個人戦】

60kg 級
小野 1 回戦敗退

野村 1 回戦敗退

本間 1 回戦敗退

吉田 2 回戦敗退

麻績 2 回戦敗退

73kg 級
加藤 2 回戦敗退

81kg 級
川邊 2 回戦敗退

【女子個人戦】

48kg 級
浦野 ベスト 16

武藤 ベスト 16

70kg 級
福場 準優勝

◎北海道ジュニア柔道体重別選手権大会

大会

81kg 級

加藤 2 回戦敗退

70kg 級

福場 2 回戦敗退

◎国民スポーツ大会北海道ブロック予選会

【少年男子個人戦】

90kg 級

加藤 1 回戦敗退

【少年女子個人戦】

52kg 級

浦野 1 回戦敗退

78kg 級

福場 2 回戦敗退

【陸上競技部】

◎北海道高等学校陸上競技選手権大会

男子 100 m

小笠原 棄権

齋藤（実） 棄権

上野 棄権

男子 200 m

小笠原 決勝 4 位

（全国大会出場）

齋藤（実） 準決勝敗退

齋藤（実） 準決勝敗退

男子 400 m

鈴木 予選敗退

男子 800 m

男子 1500 m

鈴木 予選敗退

男子 5000 m	鎌田 予選敗退	女子幅跳	米田 予選敗退
男子 400 m H	多田 予選敗退	女子砲丸投	小笠原 予選敗退
男子 4 × 100 m R	戸塚 棄権		
上野 齋藤(実) 戸塚 小笠原		女子ハンマー投	坂野 予選敗退
男子 4 × 400 m R	決勝3位 全国大会出場		栗谷 予選敗退
齊藤(優) 上野 鈴木 戸塚		女子円盤投	栗谷 予選敗退
男子走幅跳	予選敗退		坂野 予選敗退
男子三段跳	上野 予選敗退	◎北海道陸上競技選手権大会	
男子砲丸投	上野 予選敗退	男子 100 m	小笠原 予選敗退
		男子 200 m	小笠原 予選敗退
	橘 予選敗退		
女子 100 m	滝澤 予選敗退	男子 400 m	齋藤(実) 棄権
女子 400 m	本庄 予選敗退	男子 4 × 100 m R	上野・齋藤(実)・戸塚・小笠原 棄権
女子 100 m H	小笠原 予選敗退		
	本庄 棄権	◎国民スポーツ大会陸上競技大会	
女子 4 × 100 m R		北海道選手権考会	
小笠原 本庄 滝澤 米田 予選敗退		少年A男子 100 m	小笠原 予選敗退
女子 4 × 400 m R		少年A男子 300 m 決勝	齋藤(実) 4位
栗谷 本庄 米田 滝澤 予選敗退			

【ソフトボール部】	◎北海道高等学校ソフトボール選手権大会
対 帯広三条 1―15 1回戦敗退	
【ボート部】	◎北海道高等学校ボート競技選手権大会兼第全日本高等学校選手権競漕大会北海道予選会
【男子シングルスカル】	内藤 第2位
【女子ダブルスカル】	柴田・福士 第1位
◎国民スポーツ大会ローイング競技北海道ブロック予選会	
【男子ダブルスカル】	内藤・森 準決勝敗退
【女子舵手付きクオドルプル】	柴田・福士(菜)・鈴木・川田・福士(美) 第1位
【放送局】	◎NHK杯全国高校放送コンテスト北海道大会
【アナウンス部門】	参加 相澤
【朗読部門】	

【テレビドキュメント部門】	参加 若宮
【全国大会】	
【陸上競技部】	◎全国高等学校陸上競技対校選手権大会
・男子 200 m	小笠原 予選7位
・男子 4 × 100 m R	予選失格
【ボート部】	◎全国高等学校総合体育大会ローイング競技大会兼全日本高等学校選手権競漕大会
【女子ダブルスカル】	柴田・福士(菜)
	↓予選・敗退↓敗者復活戦・勝利
	↓準々決勝・敗退
◎国民スポーツ大会ローイング競技 SAGA2024	
【女子舵手付きクオドルプル】	柴田・福士(菜)・鈴木・川田・福士(美)
	↓予選・敗退↓敗者復活戦・敗退